

苗木を枯らす虫（コウモリガ）

苗木を枯らす動物

六甲で苗木の生育を阻害する動物に、イノシシ（掘起し）、ノウサギ（食害）、人間（誤伐、いたずら）の他に、コウモリガ（食害）があります。本資料ではコウモリガへの対処方法を紹介します。

コウモリガによる被害

コウモリガは蛾の仲間で、成虫は9-10月に出現し夕暮れ時に飛びます。飛びながら卵を地表へばらまき、翌春に孵化します。孵化した幼虫は地面に接した草や枯葉を摂食し、成長にともなって木の幹や枝に穿孔して入り込みます。根際付近の幹に大きな穴を開け、木を枯らしめます。渦が森ではアベマキやコナラの苗木の被害が確認されました。排泄物を外に出す際に糸でつづって大きな糞塊を形成するのが特徴です。1~2年で羽化します。



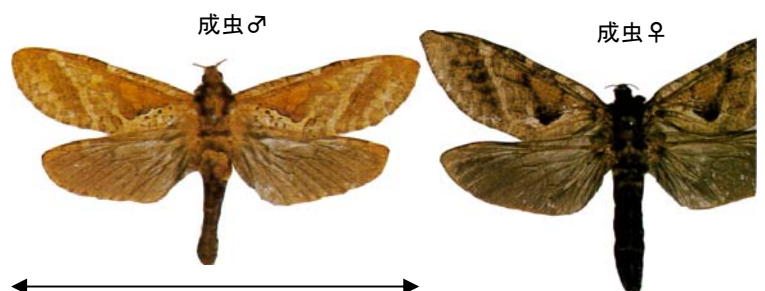
幹の根際付近に見られた糞塊(H23.10)



樹幹の穴が広がり折れかけた(H24.6)



幼虫



サイズは 45~110mm

写真左: 木のぬくもり、森のぬくもり (<http://www.jugemusha.com/byouki-m-koumoriga.htm>, 2012.7.13)

写真右 2 点: 日本産蛾類大図鑑Ⅱ (講談社、1982)

防除法

- ・ 幹や枝の穿入口から針金を入れるなどして幼虫を刺殺する。
- ・ 糞塊をとり除き、穿入口に揮発性の殺虫剤を注入する。
- ・ 苗木周辺の雑草を刈り取り、幼虫を苗木に近づけない。